



平成30年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年11月8日

上場会社名 株式会社KeyHolder 上場取引所 東
 コード番号 4712 URL http://www.keyholder.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 明珍 徹
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 大出 悠史 TEL 03 (5843) 8888
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月9日 配当支払開始予定日 ——
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家、アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	9,533	△16.0	169	△71.3	148	△72.1	81	△38.7
29年3月期第2四半期	11,345	1.7	589	68.9	532	74.6	133	—

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 83百万円(△37.8%) 29年3月期第2四半期 133百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	0.59	—
29年3月期第2四半期	0.96	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第2四半期	22,122	9,658	43.6	69.29
29年3月期	21,771	9,714	44.6	69.69

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 9,646百万円 29年3月期 9,703百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	1.00	1.00
30年3月期	—	0.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,000	△10.5	850	6.7	750	9.2	450	113.8	3.23

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ——— 社（社名）、除外 ——— 社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期2Q	139,259,092株	29年3月期	139,259,092株
② 期末自己株式数	30年3月期2Q	25,798株	29年3月期	25,652株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期2Q	139,233,333株	29年3月期2Q	139,233,460株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によりこれらの予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、各種政策の効果もあって、緩やかな回復基調にあるものの、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に対する懸念などから、依然として先行きは不透明な状況となっております。

当社グループの主力事業である総合エンターテインメント事業が属する余暇市場におきましては、労働環境の改善による余暇時間の増加に伴う余暇市場への参加人口が回復傾向にあるものの、ゲームセンターなどの娯楽業では依然として効果が限定的となっております。

また、当社グループの第2の主力事業である不動産事業が属する不動産市場におきましても、2020年を睨んだ様々な建築プロジェクトや住宅取得に係る各種税制措置が図られるなど、好材料が見受けられる一方で、直近の住宅着工件数の動向では市況の伸びが鈍化しており、当社グループが属する各事業における市況環境においては引き続き注視が必要な状況となっております。

このような市場環境の中、総合エンターテインメント事業において、VRエンターテインメント施設の「VR PARK TOKYO」に関連した各種取り組みを積極的に実施したほか、コラボカフェやカラオケ等のコンテンツ部門において、引き続きコラボ企画を多数実施いたしました。

また、新規事業として、インバウンド需要に向けた施策として前第3四半期から開始している外貨両替所事業の新たな取り組みとして、訪日外国人観光客の往来が多いアドアーズサンシャイン店とアドアーズ上野アメ横店の2店舗に外貨自動両替機の設置を7月から開始いたしました。

不動産事業および商業施設建築事業においても、新規案件の取得や取扱い件数の増加による売上強化に努めました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高9,533百万円（前年同四半期比△16.0%）、営業利益169百万円（前年同四半期比△71.3%）、経常利益148百万円（前年同四半期比△72.1%）、親会社株主に帰属する四半期純利益81百万円（前年同四半期比△38.7%）となりました。

なお、当社は、平成29年10月1日を効力発生日として、商号を「株式会社KeyHolder」へ変更し、持株会社体制へと移行いたしました。また、これに伴い、当社の主力事業であった「総合エンターテインメント事業」を、当社の100%子会社である「アドアーズ株式会社」（平成29年10月1日付けで「アドアーズ分割準備株式会社」から「アドアーズ株式会社（以下、アドアーズといいます。）」へ商号変更）へ承継いたしました。

当社グループにおける主な既存事業において、それぞれの役割と責任を明確にすることによる事業基盤の強化に加え、積極的なM&Aの実施による機動的な事業再編やグループ全体の経営資源の最適配分を図り、企業価値の向上に努めてまいります。

セグメント別の業績は、次の通りであります。

<セグメント別概況>

〔総合エンターテインメント事業〕

主力ジャンルであるメダルゲームにおいて、夏休み期間中に各種イベントを実施したほか、顧客ニーズを反映したアドアーズオリジナルのシングルメダルマシンを継続して開発しており、9月には10機種目を発表するなど、いずれも多くのお客様にご好評をいただいております。

VRアトラクション常設型のVRエンターテインメント施設「VR PARK TOKYO」では、新アトラクションの導入に加え、異業種とのコラボ企画による期間限定のVR機器の設置や、催事・イベントなどへのVR機器のレンタルを引き続き実施し、9月末時点にはオープンからの総来場者数が70,000人を超えるなど好調に推移しております。また、VR機器の販売代理店契約を締結するなど、アドアーズオリジナルのVR機器の販売を含めた本格的な販売活動を開始し、売上強化に努めました。

しかしながら、夏休み期間中の記録的な天候不順による集客の伸び悩みによる影響を受け売上・利益面共に軟調に推移いたしました。

以上の結果、売上高5,451百万円（前年同四半期比△23.6%）、セグメント利益344百万円（前年同四半期比△46.5%）となりました。

ご参考：平成30年3月期9月末時点における売上高前年比 ※1

（単位：%）

	4月	5月	6月	第1Q	7月	8月	9月	第2Q	上半期
売上高前年比	84.3	86.8	89.4	86.8	83.6	92.6	93.1	89.8	88.3

※1 第1四半期時点において、運営施設の既存店売上高前年比として公表しておりましたが、総合エンターテインメント事業全体の実績に置き換えております。また、前期末に株式譲渡している株式会社ブレイクの実績を除外して算出しております。

当第2四半期連結累計期間における出店および閉店の状況におきましては、平成29年4月に「アドアーズ西船橋店」と「アドアーズ一宮店」を閉店しており、当第2四半期決算短信発表時点における総店舗数は45店舗となります。

〔不動産事業〕

（一戸建分譲部門）

営業拠点を拡大したことにより販売件数を順調に積み上げられたことで売上面では堅調に推移したものの、利益面では土地の仕入れ価格に加え、施工人件費等の高騰などの影響を受けて軟調に推移いたしました。

（不動産アセット部門）

保有不動産の安定した賃料収入により、堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高3,004百万円（前年同四半期比+1.5%）、セグメント利益130百万円（前年同四半期比△21.2%）となりました。

〔商業施設建築事業〕

引き続き得意とする設計案件を積極的に獲得したほか、施工案件の完成工事売上が計上できたことにより売上・利益面共に堅調に推移しました。しかしながら、前期のような大型施工案件がなかったことにより、売上高973百万円（前年同四半期比△20.6%）、セグメント利益47百万円（前年同四半期比△3.5%）となりました。

〔店舗サブリース事業〕

引き続き株式会社オリーブスパ（以下「オリスパ」といいます。）との連携による事業活動を行った結果、売上高93百万円（前年同四半期比+837.0%）、セグメント利益17百万円（前年同四半期はセグメント損失1百万円）となりました。

（2）財政状態に関する分析

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べて350百万円増の22,122百万円となりました。これは主として借入等による現金及び預金の増加によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ407百万円増の12,464百万円となりました。これは主として短期借入金の増加及び社債の発行によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ56百万円減の9,658百万円となりました。これは主として配当金の支払によるものであります。

この結果、自己資本比率は43.6%（前連結会計年度末は44.6%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、869百万円の資金の増加（前年同四半期は167百万円の資金の増加）となりました。これは主としてたな卸資産の減少によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、412百万円の資金の減少（前年同四半期は937百万円の資金の減少）となりました。これは主として有形固定資産の取得によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、406百万円の資金の増加（前年同四半期は1,598百万円の資金の増加）となりました。これは主として短期借入金の増加及び社債の発行によるものであります。

これらの活動の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は6,185百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予想情報に関する説明

平成30年3月期の通期連結業績予想におきましては、平成29年5月9日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

平成29年10月1日を効力発生日とした持株会社体制への移行に伴い、当社の商号を「株式会社KeyHolder」へ変更し、新たな体制となった当社グループにおける事業基盤の強化に加え、積極的なM&Aの実施による機動的な事業再編や経営資源の最適配分により、引き続き当社グループの収益拡大および企業価値の向上に努めてまいります。

[総合エンターテインメント事業]

当該事業におきましては、平成29年5月24日付け「商号の変更および定款一部変更に関するお知らせ」のとおり、持株会社体制移行後の事業について、「アドアーズ分割準備株式会社」の商号を「アドアーズ株式会社」に変更し、併せて事業の承継をしております。

今後は、アドアーズが運営する店舗の強みである好立地を活かしたVRエンターテインメント施設「VR PARK TOKYO」の2号店目となる新規施設の開設や、既に公表しておりますとおり、人気テレビアニメの「おそ松さん」初となるVRコンテンツの自社開発などによるコンテンツ力を最大限活かした新サービスの提供により、既存ゲームに捉われない新たな取り組みを積極的に実施し、収益の強化に努めてまいります。

また、コンテンツ関連部門におきましては、引き続き人気アニメやゲームコンテンツおよびアーティストなどのコラボ企画を多数実施するだけでなく、コラボ企画によって培ったライセンサーとのリレーションとアドアーズが運営する駅前好立地の店舗を活用した、新たなエンターテインメント関連事業の創出を目指すことで、総合エンターテインメント事業の業容および収益の拡大に努めてまいります。

[不動産事業]

一戸建分譲部門におきましては、引き続き各拠点における営業力の強化により、事業の拡大を図ってまいります。

不動産アセット部門におきましては、引き続き運用・保有の両面にわたり収益不動産を手掛けていくことで、さらなる収益の拡大を図ってまいります。

[商業施設建築事業]

キーノート株式会社（以下「キーノート」といいます。）の強みであるデザイン力や営業ノウハウなどをさらに高めることで、新たな商業施設の設計・施工案件の獲得を積極的に図り、収益性の高い案件の獲得を目指してまいります。

[店舗サブリース事業]

アドアーズが首都圏での店舗運営の中で培ってきた店舗開発ノウハウや情報網、さらにはキーノートによる不動産開発のノウハウを活かし、引き続きオリスパとの連携を密に図り、業容の拡大を目指してまいります。

本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであるため、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,593,472	6,395,748
受取手形及び売掛金等	202,771	128,815
未成工事支出金	122,995	14
リース投資資産	237,294	230,415
販売用不動産	3,059,035	3,824,988
仕掛販売用不動産	1,435,845	2,108,877
商品	2,039	9,911
貯蔵品	144,086	98,362
前払費用	558,423	578,712
未収入金	113,302	1,649
前渡金	47,082	49,462
繰延税金資産	113,416	113,258
その他	119,276	169,075
貸倒引当金	△20,000	—
流動資産合計	11,729,041	13,709,292
固定資産		
有形固定資産		
アミューズメント施設機器(純額)	901,339	957,388
建物及び構築物(純額)	1,984,752	1,308,736
工具、器具及び備品(純額)	45,024	46,605
機械装置及び運搬具(純額)	845	922
リース資産(純額)	1,635	6,870
土地	152,875	142,684
建設仮勘定	2,503	10,422
有形固定資産合計	3,088,977	2,473,629
無形固定資産		
借地権	1,644,763	740,887
ソフトウェア	19,479	16,465
その他	607	33,007
無形固定資産合計	1,664,850	790,360
投資その他の資産		
投資有価証券	38,666	39,438
出資金	19,096	11,142
長期前払費用	127,984	65,021
敷金及び保証金	4,982,232	4,899,175
破産更生債権等	85,276	83,364
繰延税金資産	10,702	9,789
その他	145,640	173,519
貸倒引当金	△121,018	△132,354
投資その他の資産合計	5,288,580	5,149,097
固定資産合計	10,042,408	8,413,088
資産合計	21,771,449	22,122,380

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金等	713,333	718,573
短期借入金	369,162	772,600
1年内返済予定の長期借入金	2,329,024	1,837,535
1年内償還予定の社債	111,760	171,760
未払金	952,576	885,489
未払費用	63,881	62,570
未払法人税等	136,516	115,689
前受金	175,402	159,069
預り金	73,682	70,365
未成工事受入金	35,532	51,758
株主優待引当金	34,765	38,554
その他	39,109	35,419
流動負債合計	5,034,747	4,919,385
固定負債		
社債	493,240	677,360
長期借入金	4,969,735	5,448,335
長期未払金	267,845	143,670
預り保証金	450,660	445,918
資産除去債務	775,270	775,270
繰延税金負債	50,928	48,915
その他	14,508	5,220
固定負債合計	7,022,189	7,544,690
負債合計	12,056,937	12,464,076
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,405,000	4,405,000
資本剰余金	4,393,440	4,393,440
利益剰余金	901,095	843,446
自己株式	△2,877	△2,895
株主資本合計	9,696,657	9,638,992
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,354	7,811
その他の包括利益累計額合計	6,354	7,811
新株予約権	11,500	11,500
純資産合計	9,714,512	9,658,303
負債純資産合計	21,771,449	22,122,380

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	11,345,622	9,533,096
売上原価	9,585,126	8,252,445
売上総利益	1,760,495	1,280,651
販売費及び一般管理費	1,171,137	1,111,598
営業利益	589,357	169,052
営業外収益		
受取利息	951	1,242
受取配当金	843	889
広告協賛金	28,954	33,564
その他	13,138	26,552
営業外収益合計	43,887	62,249
営業外費用		
支払利息	72,484	64,998
その他	28,436	17,520
営業外費用合計	100,920	82,518
経常利益	532,324	148,783
特別利益		
固定資産売却益	15,651	420
投資有価証券売却益	—	1,264
特別利益合計	15,651	1,685
特別損失		
固定資産売却損	2,074	10,809
固定資産除却損	1,190	2,194
減損損失	3,996	—
投資有価証券評価損	298,256	—
その他	42,189	1,371
特別損失合計	347,706	14,375
税金等調整前四半期純利益	200,269	136,092
法人税等	67,123	54,507
四半期純利益	133,146	81,585
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	133,146	81,585

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	133,146	81,585
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	50	1,457
為替換算調整勘定	347	—
その他の包括利益合計	398	1,457
四半期包括利益	133,544	83,042
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	133,544	83,042

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	200,269	136,092
減価償却費	412,632	418,440
減損損失	3,996	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△2,440	△8,664
受取利息及び受取配当金	△1,794	△2,131
支払利息	72,484	64,998
固定資産売却損益(△は益)	△13,577	10,389
固定資産除却損	1,190	2,194
投資有価証券売却及び評価損益(△は益)	298,256	△1,264
売上債権の増減額(△は増加)	169,381	80,835
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,177,219	203,934
仕入債務の増減額(△は減少)	20,518	5,239
未成工事受入金の増減額(△は減少)	303,897	16,225
その他	△32,817	5,911
小計	254,777	932,201
法人税等の支払額	△87,197	△63,020
営業活動によるキャッシュ・フロー	167,580	869,180
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	114,150	61,495
有形固定資産の取得による支出	△529,938	△467,316
有形固定資産の売却による収入	82,460	3,497
無形固定資産の取得による支出	△365,142	△32,400
投資有価証券の売却による収入	—	2,600
敷金及び保証金の差入による支出	△189,788	△6,153
敷金及び保証金の回収による収入	105,116	31,721
資産除去債務の履行による支出	△81,389	—
利息及び配当金の受取額	1,815	2,151
その他	△74,361	△7,670
投資活動によるキャッシュ・フロー	△937,078	△412,073
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	△449,884	403,438
長期借入れによる収入	3,211,000	1,899,998
長期借入金の返済による支出	△1,048,032	△1,912,887
社債の発行による収入	150,000	300,000
社債の償還による支出	△30,000	△55,880
自己株式の取得による支出	—	△17
利息及び配当金の支払額	△206,479	△179,941
その他	△28,377	△48,190
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,598,226	406,519
現金及び現金同等物に係る換算差額	△389	145
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	828,338	863,771
現金及び現金同等物の期首残高	4,316,585	5,321,377
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,144,924	6,185,148

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております
なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(追加情報)

当第2四半期連結会計期間において、従来は有形固定資産の「建物及び構築物」、「土地」及び無形固定資産の「借地権」に含めていた不動産の一部について保有目的を変更したため、1,490,370千円をたな卸資産の「販売用不動産」に振替えております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	総合エンター テインメント 事業	不動産事業	商業施設建 築事業	店舗サブ リース事業	計				
売上高									
外部顧客 への売上 高	7,131,742	2,959,423	1,226,169	9,940	11,327,276	18,345	11,345,622	—	11,345,622
セグメン ト間の内 部売上高 又は振替 高	—	—	96,508	—	96,508	—	96,508	△96,508	—
計	7,131,742	2,959,423	1,322,677	9,940	11,423,784	18,345	11,442,130	△96,508	11,345,622
セグメント 利益又は損 失(△)	643,839	164,924	49,698	△1,352	857,110	5,560	862,671	△273,313	589,357

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パチスロ機周辺機器レンタル事業・ゴルフ事業であります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△273,313千円は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. 第1四半期連結会計期間より、報告セグメント「店舗サブリース事業」を新たに追加しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第2四半期連結累計期間に、「総合エンターテインメント事業」セグメントにおいて3,996千円の減損損失を計上しました。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	総合エンター テインメント 事業	不動産事業	商業施設建 築事業	店舗サブ リース事業	計				
売上高									
外部顧客 への売上 高	5,451,948	3,004,122	973,774	93,151	9,522,997	10,099	9,533,096	—	9,533,096
セグメン ト間の内 部売上高 又は振替 高	—	—	1,696	—	1,696	—	1,696	△1,696	—
計	5,451,948	3,004,122	975,470	93,151	9,524,693	10,099	9,534,792	△1,696	9,533,096
セグメント 利益又は損 失(△)	344,669	130,040	47,956	17,104	539,771	△2,140	537,631	△368,579	169,052

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外貨両替事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△368,579千円は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。